

腸管出血性大腸菌（O157等）感染症にご注意ください！



0157 電子顕微鏡写真

提供 大阪府立公衆衛生研究所

潜伏期間（菌が体の中に入ってから症状を起こすまでの期間）

- ・ 2～7日のものが多い

症状

- ・ 下痢（軽いものから水様便や血便）・腹痛・発熱 など
- ・ 無症状の場合もあります
- ・ 小さなお子さんは重症化して溶血性尿毒症症候群（HUS）を併発する場合がありますので注意が必要です。HUSは重症になると、けいれん・昏睡を起こし生命の危険もあります。

感染経路

- ・ 腸管出血性大腸菌は通常牛などの腸内に生息しています。そのため菌がついた食べ物などを通して口から体内に入ることによって感染します。特に、ユッケやレバ刺しなどのお肉の生食や、焼肉やバーベキューなどでお肉を十分に加熱しなかったことが原因で多くの感染が発生しています。
- ・ 感染者の便中の菌が、手を介して口の中に入ること、人から人へうつることがあります。



感染を防ぐには

- お肉の生食は避け、十分に加熱して食べるようにしましょう！
- お肉を焼くときの取り箸、トングなどは専用のものを使用し、生のお肉が触れた物が口に入らないように気をつけましょう。
- トイレの後や、食事の前はよく手を洗いましょう。
- タオルの共用使用はやめましょう。
- 下痢などで体調が悪いときはプールの利用はやめましょう。